

---

D

零時

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

D

### 【Nコード】

N4634B

### 【作者名】

零時

### 【あらすじ】

Dの日々、目まぐるしく変わる生活を擬似体験してみてください。  
あなたはどのタイプにあてはまりますか？

## その1

### 一日目

真つ暗闇の部屋に目覚まし時計が鳴り響く。

また昨日と似たような今日が始まった。

まだ眠い。目覚ましを止め、また一端浅い眠りに入る頃、再びベルが鳴った。(今度は起きなくては)と自分に言い聞かせながら思う(俺は凡人なのだ。まあ良くてその程度なのだ。でももし俺が野球選手ならば一生懸命練習をする。寝る間も惜しんでバットを振る。きつと二流位にはなれる。今年の年収の10倍は稼げるかな?でも現実

は違う。朝から晩まで骨の髄までやったって100000円なのだ。ああ眠い。9時間寝ても寝足りない。今日仕事に行つたつてまたいるんな人からドヤサレテ一日が過ぎていくだけなんだ。今日こそ無断欠勤してやろうか。そして遠くに行きたい。真つ青な海を見たい。穏やかな波と風。厳しさの欠片もない。そう、優しい優しい風景。癒される。心の底から骨の髄から癒される、そんな自然を肌で感じたい。)でも現実はまだつきり違うリアルもリアル。かつこいいい方をすれば、すでに十年先のビジョンまではつきりして

る。そう誰にだって真似のできる俺だけの人生なのだ。とうとう諦め、布団を出たDは、いつも通り素早く身仕度をすませ、7分後には、愛車のミニにエンジンをかけた。

10年オチの中古なのでアイドリングには特に慎重だった。

今日まで三年間乗って二回、車が悲鳴をあげた。

一度目は二年前の大雪の日だった。

信号待ちの最中、エンジンが急に止まったのだ。

二度目は街の路地を徘徊している最中。

ギアが全く入らなくなり、あえなくレッカー車で運ばれていったのだった。

幾多の困難を共に乗り越えてきたミニをDはコヨナク愛していた。

だからこそ毎朝10分間のアイドリングは必ず遂行してきたのであった。

そして今日もチヨークを戻し空ブカシを少ししてから会社へ向かう。BGMは気分によって使い分けた。

音楽はジャンルを問わず積極的に自分に吸収させた。

ジャズからロック、流行りのニューミュージックまで。

他ならぬ雑食だった。

寒空にはどんよりとした雲。

建築作業員として働くDには、冴えない一日のはじまりだった。

この日Dがおもむろに手にした一枚はマルーンファイブのMDだった。

独特のファンクミュージック。

ケダルイ感じのビートが今日の天気にも妙にマッチした。

4曲目が終わりかけた頃ポツポツと雨が降ってきた。

(きっと今日仕事が終わる頃にはずぶ濡れなんだろうな) ブルーな気分には拍車がかかった。

(でも頑張ろう。)

これはあくまで仮の姿なのだ。

この俺がこんなカッコで終わる訳がない。

サクセスストーリーの序章に過ぎない。

きっと10年経てばこの苦勞は美談になる。

聴衆は涙する。

そしてその勝利のベクトルは正の方向にまた力強く伸びるのだ。

そのためにはこんな小さな積み重ねが一番に他ならない。

この考えこそ、絶対だ！) ポジティブシンキングの極め。

いうまでもなくDはB型だった。

6曲目が2度目のサビに差し掛かる頃会社に到着した。

そこからは昨日と変わらない。

瞬き一つする間に5時になる。

そんな感覚だ。

なんの刺激もない一日が終わっていく。

そしてまた、愛車に乗車する。

朝の続きのミュージックが鳴り響く。

2回目のサビの部分からのスタート。

2回目から3回目へ。

そしてゾクというアウトロへ。

そして曲が終わった。

Dは静かにステレオのスイッチを切った。信号が青になり、ギアを一速にいれる。左にウインカーを焚いて国道にでた。日中の雨は嘘のように止んだ。びしょびしょで冷えきった体も暖まってきた。南に南にひたすらいけば安住の地に辿り着く。そしてゆっくり休めばよい。夜が更けてくれれば酒を飲ばよい。酔いが廻れば寝ればよい。瞬く間に過ぎていく一日。いつもの一日。平穏で平凡で平坦な一日。そしてなりより平和な一日。いつそのこと消えてなくなりたい。そんな日々の繰り返し。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4634b/>

---

D

2010年10月11日01時57分発行